

【足立区地域自立支援協議会こども部会】会議概要

会 議 名	令和5年度 【第2回足立区地域自立支援協議会こども部会】
事 務 局	福祉部 障がい福祉センター
開催年月日	令和5年9月5日（火）
開催時間	午後2時00分 ～ 午後4時00分
開催場所	障がい福祉センター 5階 ホール
出席者	小谷博子部会長 佐藤奈緒委員 相澤まり子委員 川松佳緒里委員 相澤政子委員 古里宏子委員 設楽寧子委員 橋本太郎委員 山本克広委員 佐藤直孝委員代理 工藤優子保健師
欠席者	小長井 亜希子委員 酒井 康年委員 辰田 雄一委員 寺山 早苗委員 梶原 里美委員 五十嵐 雅美委員
会議次第	1 開会 障がい福祉センター所長挨拶（代理：浅輪係長） 2 議事 （1）部会長挨拶 （2）グループ討議 （3）グループ討議報告 （4）第3回の議題について 3 閉会
資料	1 こども部会次第 2 東京電機大学×東京未来大学 「医療的ケア児の課題解決ハッカソン 2023」実施報告
その他	公開状況：公開 傍聴：なし

様式第2号（第3条関係）

1 開会

【司会 浅輪】

今日は分科会のような形で会場を設定させていただきました。グループをどのように分けるか非常に悩みましたが、同じグループにさまざまな方が入っていた方が、それぞれの立場からのお話が聞けて良いと思いました。互いを知る機会になると良いと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事前に、テーマを3つお知らせしております。それぞれ発表していただいて、グループごとに協議を進めていただきたいと思います。

各グループにあしすとの職員がおりますので、意見をまとめたものを発表し、全体で共有したいと思います。

続きまして、今年度オブザーバーとして出席をしていただいております、竹の塚保健センターの工藤様です。

【工藤保健師】

工藤です。よろしくお願いいたします。

【司会】

本日ですが、もう少し多くの委員の方にご出席していただける予定でしたが、ご本人の体調や保育園の方ではコロナが増えてきて、そちらへの対応が必要となり、急きょご欠席の委員の方が何名かいらっしゃいます。今日お見えの方で、ぜひ活発な協議ができるようよろしくお願いいたします。では早速ですが本日の議事に入らせていただきます。

協議に先立ちまして、小谷部会長よりご挨拶いただき、この協議を進めるにあたっての話題提供をしていただきます。それを

もとにしたグループ協議の後、休憩時間をとります。

休憩後、グループ協議の内容について発表し、共通理解をしましたあと、第3回目に向けての方向付けをするということで進めていけたらと思っています。

終了は16時を予定しております。どうぞ最後までご協力お願いいたします。では小谷先生よろしくお願いいたします。

【小谷部会長（東京未来大学）】

こんにちは。前回、こども家庭庁でさまざまな検討がなされているという話をいたしました。足立区からは、うめだあけぼの学園の酒井先生が委員としてこども家庭庁の会議に参加されています。残念ながら酒井先生はお休みなので、詳しいことを伺えませんが、こども家庭庁のホームページを確認しますと、こども家庭庁の会議で強度行動障害について議題として挙げられていることがわかります。このことから、こども家庭庁としては、強度行動障害は大人になってからの問題だけではなく、小さいときからの問題も関係すると考えているように私は感じています。どうしてそのように感じたかと申しますと、学生たちと日々関わっていると、きょうだいに障がい児を持つ学生、特に、弟や妹に障がいがある場合、日々の生活の中で、我慢させられているケースがあります。自閉スペクトラム症の影響で、パニックを起こしているきょうだいを親が押さえるのを見てきたという学生の言葉から、パニックになる前に、子どもの感情をしっかり受けとれているだろうか？ 暴れたりすることを事前に予防するためには、しっかりと感情を言語化するというのが大事なのではないかと、私は思ったりしています。

本学も、放課後等デイサービスでアルバイトをしている学生が多く、18歳の卒園後に、子どもたちが成人してからどのような施設に行くのかを知りたいという話があって、私も学生とともに、足立区の成人の余暇活動を行なっている施設へ見学に行きました。見学に行きましたら、障がいをお持ちの方でも、皆様きちんとお座りになっていました。小さいうちは走り回っていることがあっても、大人になったら落ち着くケースがあることを知りました。

18歳までの預かり時間において、ただ見ているという施設と、そのお子さんが伸びる可能性を信じて、様々な活動に取り組んでいる施設など、多種多様な放課後等デイサービスの施設があり、この違いがそのお子さんの将来に大きく影響するのではないかと感じました。大人になってからも地域で穏やかに過ごせるように、障がいを持つ子どもに、今、私たちに何かできるのか。そして、子どもが小さいうちにどのような支援をすれば良いのかについて、本日は皆様とともに考えていきたいと思っております。

私自身は医療的ケア児について研究しておりますが、近年、医療的ケア児が急速に増えています。それはなぜかと言いますと、高齢出産が増加しているということもありますし、周産期医療が進化しているからでもあります。現在、0歳児、1～4歳児の死因の第1位は、先天奇形、変形および染色体異常となっています。他の国では助からないようなケースでも、日本では、NICU（新生児集中治療室）において新生児科の医師が必死になって助けてくれているのです。

足立区も、東京女子医大に周産期医療センターができたことで、医療的ケア児が急速に増加することが予想されます。医療的ケア児支援法もできましたので、普通の小学校へ行きたいということも拒否できないわけです。親御さんが「近くの学校に通いたい」と望めば通えるように環境調整をしていく必要があります。今は、0～4歳の呼吸器をつけているお子さんが増加しています。10年前では助からなかった子どもたちがここ何年かは助かるようになっていのです。医療機器も充実していますし、国の制度も充実してきています。看護師さんも必要ですし、医療資源も必要です。学校は夏休みもあるので、学校現場で働こうという看護師は少ないです。足立区は周産期センターを持つ大学病院、児童発達支援センター、特別支援学校、大学まで、全て揃っている珍しい区ですので、こども部会でしっかり話し合って、次の一步に踏み出すきっかけになればと思っております。ぜひ情報を共有し議論を重ね、第3回の会議でまとめたいと思っております。

東京未来大学は足立区のサポートがあって成り立っている大学ですので、大学にとっても足立区に還元することを、何よりも大事に考えています。ぜひとも有意義な議論を進めていただきたいと思います。

2 グループ討議

グループ討議の内容

【1 グループ】

（1）課題と感じていること

- ① 子どもたちに、なるべくいろいろな経験をさせたい。特別支援学級に通っている子も通常の学級に通っている

る子と同様の経験をさせたい。

- ② 人的な面（人手）。
- ③ 保護者の負担感（週に7日デイサービス）。
- ④ いっぱいいっぱい。
- ⑤ 周知が進まない。
- ⑥ 利用者は情報に詳しい方が多い。
- ⑦ つながりにくい方への対応。
- ⑧ 大変な方にこそ利用してほしい。
- ⑨ 同じ立場だから分かり合えることも。
- ⑩ 保護者の気づき増えてきた。
- ⑪ 多様化する利用者への支援のあり方。
- ⑫ 外国につながる家族複雑な背景を持つ家族への支援。
- ⑬ 園との連携のあり方。

（2）課題解決に向けて

- ① コロナあけて取り組みたいが…。
- ② 子に関わろうとしない保護者への対応。
- ③ HPのリニューアル等できることを。
- ④ 公開講座の実施。
- ⑤ 療育に地道に取り組む。
- ⑥ 長期的な展望を伝える。
- ⑦ 職員の力量を高める。

（3）他の機関に望むこと。

- ⑧ 運動の機会がほしい。
- ⑨ 保護者（ご家族）をつなげてほしい。

【2グループ】

（1）課題と感じていること。

- ① 子どもたちの居場所、安心して遊べる場所。
- ② 誰でも遊べる公園。
- ③ たくさんの人と触れ合う体験。
- ④ 保護者の支援子どもが穏やかにすごすために。
- ⑤ きょうだいに目の届かないことが多

い支援が必要。

- ⑥ 健診での発見・連携先との情報共有。
 - ⑦ 発達障がいに必要な支援、手立てを示すこと。
 - ⑧ はたらくところに就職できずに困った。
- （2）（3）課題解決に向けて・他の機関に望むこと

- ① 子どもへの接し方を考える。
- ② いろんな特性のある人（児）がいるという周りの人の理解は大切（多様性）。
- ③ 副籍の区立小学校へ放課後を利用可（副区長に相談したところ）。
- ④ 障がい児優先時間帯を設けてほしい。
- ⑤ 保育園・幼稚園・こども園との連携。
- ⑥ スピード感、すぐに対応を。
- ⑦ ニーズをとらえて動く。

3 グループ

（1）課題と感じていること

- ① 児童福祉法改正により、医療型と福祉型の受給者証が統一される。医療型では通所医療受給者証と通所受給者証で利用していただいていたが、通所受給者証に一本化される。
- ② 他機関との連携。
- ③ 通所施設の定員割れ。
- ④ 車いす利用者の外出が難しい。
- ⑤ 地域連携がコロナ禍ではやりにくかったが徐々にやりやすくなってきた。
- ⑥ 支援の継続をするため、専門的スキルを持った介護スタッフの人員不足。
- ⑦ 防災対策には協力体制が必要。単独事業所の対応では限界がある。
- ⑧ 発達障害を発見される子どもは増加傾向。
- ⑨ こども支援センターげんきは、相談

の申し込みがあつてから面談まで2か月かかってしまい、タイムリーな相談ができない。人員の確保が課題だと考えている。

(2) 課題解決に向けて

- ① 自立に向けて、さまざまなプログラムを提供するには他機関のサービスを試行錯誤しながら利用している。
- ② 在籍中の利用者や卒業後の方、近隣の方々が利用できるサロンを運営している。今後も継続していきたい。

(3) 他の機関に望むこと

- ① 他機関との連携は大切。
- ② 各機関の連携が必要。

3 第3回の議題について

【小谷部会長】

私もグループに入らせていただきましたが、足立区は割と恵まれているというお話がありました。逆に言うと、建物はあるけど人が足りないというのが問題なのではないか、そうしたところに学生たちを送り込まなければならないということが課題であることに気がつきました。

防災の面も足立区では川が増水したときに逃げ場所がないということが大きな問題になりますし、町が広くそれだけ住人が多いので、福祉避難所があっても、人があふれてしまうという課題があります。

こども支援センターげんきでは、医療的ケア児の支援が積極的に行われています。年齢によっては子ども自身が自分でケアできるようになることなど、少し先を見通しておくことも大事だというお話でした。お子さんによっては、保育園の時は大丈夫でも、思春期になったら羞恥心

が出てくるということもあるということです。

ここで、私の方から少し追加でお話をさせていただきたいことが2点ほどございます。ひとつ目は医療的ケア児支援のためのハッカソンの開催報告についてです。私は東京未来大学に所属していますが、昔は東京電機大学に勤務していました。医療的ケア児のための支援について、両校の学生たちとハッカソンを実施しましたので、スライドで紹介したいと思います。

二つ目は、日本小児リハビリテーション医学会についてです。来年度の第4回の学会会議を、未来大で開催する予定です。私が大会長を務めることになっておりまして、来年度の開催に向けて現在企画を進めているところです。特別講演・シンポジウム・市民公開講座・障がい者の方の家族交流会・医療機器の展示などを企画したいと思っています。ぜひ皆様、お力添えの程よろしくお願いいたします。

医療的ケア児の支援などは、足立区がフロントランナー的なところもありますし、花畑学園もすごく頑張ってもらって、頼りにして、私も大変注目しています。将来的には足立区モデルを出したいと思っています。

本日、話し合った内容についてお気づきの点をぜひWEBのアンケートで送っていただき、第3回会議において議論し、まとめて、全体会で報告をしたいと思います。

【司会】

今日のために送っていただいたアンケートはそれぞれ記録がありますのできち

んとまとめまして、皆様のほうにお返し
したいと思います。それと同時に先生に
ご提案いただいたアンケートも間に合う
ようでしたら一緒に送らせていただきま
す。次回は1月30日に部会を実施させ
ていただいて、今回のこども部会のまと
めとして、自立支援協議会本会議に報告
していきます。

どんなことを提言できるかを検討して
いきたいと思います。

4 閉会

以上を持ちまして第2回地域自立支援
協議会こども部会を終わります。